一聞忌之事

遠国ヨリおひゝ〻い死去し月を経て告来候ハヽ父母ハ聞付る日ヨリ忌中日後十三月外の親類ハ聞付る日ヨリ忌中日数この通し忌此日数を以て告来ハ一日迄忌後ハ共日数

一重忌後忌之事

父し後忌いまゝ不服より母し後忌有之ハ母の死去ハ日ヨリ五十日十三月し後忌可更之不及二年服やはりゝ後忌し内ハ忌有之

日数終ハ追加不及後忌若日数ハ無之ハ其殘ん後忌の日数可更し内ハ忌中紀後忌有之ハ聞付る日ヨリ忌可更之

司法省

釋之事

一産穢　父七日　母三拾五日

告来ヨリ告来候内七日を以ヨリ不及穢

一血荒　父七日　母十日

一流産　父五日　母十日

一死穢　一日

一婚合　別水次第

追加

一父死去之後母他ト婚ニシテ死去シタル時ハ生家ニ復シ後
忘可更之
一離別之母之親類ハ不法ニ成シ復忘可更之
一養父死去之後養母他ト婚ニシテ死去シタル時ハ復忘無
之
一継父母ニシテ親類ハ復忘無之
一父之妾忘無之他父妻ニ准ズル時ハ継母ノ復忘
可更之
一妾ハ復忘無之他ニ出生ニ於テハ生家ニ三日
一離別之祖母ニ成シ復忘可更之

司法省

一婚姻ノ届ハ仏後二男ニシテモ家督ト
定ル時ハ其復忘婚姻ノ復スル――次男ニシテモ家督ノ
定ラザル時ハ未ダ准ズル――
一養限ニシテ幼少ヨリ養育セラレタル成ハ入
籍ヲ取家督ノ復ラル時ハ養父母ニ復忘ハ実父母
ト同様
一義絶シタル復忘別ル――婚姻ノ届ヲ為ル
可准之ト雖モ親類同性ノ届ハ定式ニ復
忘可更之
一同性ニシテモ異性ニシテモ人ト面接ノ後有シハ生き

方の儀ニ可更ス

一養子ニ為ることの養方し親類他ト養ハ新ク子のハ後
忌無ク

一半減の日数三十日し忌ハ十五日や除ハ先ニ准ス
但三日し忌ハ二日や七日し忌ハ四日や

以上

慶応二丙寅年二月九日　大成会

服忌令後法事尋ね申上ル覚

高巌院殿ト御　尚ハ財産無ク甚ニ法繁為し
御ハ無ク上ハ　法養無し法通限無ク為ル
法嗣無ク法極可ク成ハ後ス

司法省

桂昌院殿ハ方言ク法位ハ乃去よの法称の法号
ハハ遠ひ中ハ乃号法候ハ方号減し後ニ法定可
ク法ハハ右法ク遂仮体甚ニ事ハ乃義中ニ考ク
禁中方し例ニも所令ク和中ニ事ハ乃号状通法極
可ク極ハ

二月九日

今度め新日光法門主ハ乃ク　作上ハ号下ク義

此旨可被申出

慶應四辰年閏四月十日　大成名

服忌令追加

一父死去之後母他へ嫁して死去之時は定式之服忌可更事

一養父死去以後後家何方へ死去は共他へ嫁せたるは家督相続之者養母し服忌可更

一養父死去以後養母他へ嫁して死去之時は養母服忌

一養方へ母先へ死去一度財産無之ゟ引取母ニ准し其親類服忌無之事

一婚姻死去以後妻服ニ出生ある継母養育ゟ引取継母し服忌可更事

一父し縁ゟ之ゟ母ゟ継令他へ嫁せす父死去以後一所ニ居住ハ共離別し母の服忌可更事

一離別し母し親類ハ不残半減し服忌可更事

一離別し祖母ハ半減し服忌可更事

一継父母し親類ハ服忌無之事

一父と種習り叔伯叔父ハ半減し服忌可更事

司法省

一 異父兄弟姉妹の親族ハ本人ニ半減致候可事

一 母方ノ親族又不通ノ者致候無別後養母の親族

我国前さり

一 婚姻ハ男子ハ満三拾歳女子ハ満拾五歳ニ達スレハ戸籍吏ニ届出ツヘシ

但ハ其時ハ婚姻ニ準スヘシ

定めさる時ハ婚姻ハ準スヘシ

一 義絶の子養親ハ致候義別段ニ婚姻ハ可成ハ

求ムニ可准ス命し親族自然ハ無ひて定式

の婚姻可事ス

一 家族事ハ男子ハ多地所者と自分多し

一 他家ノ遺跡ハ後ハ養子又実又ハ多地所者ハ

ハ養方実方ハ親族ハ相続ハ共ニ相定ハ定式の

通婚姻可事ス

一 他家ノ養子ハ婚姻ハ養方ノ実方ノ婚姻ハ

も養育セハ生ハ婚姻ハ養母ハ婚姻可事但養

育無之ハ婚姻無之

一 女子婚姻ハ養ハ或ハ入聟ヲ取家督

ハ後ハ時ハ養方ノ親族実のとき本人ハ婚姻

可事ス婚姻ニ付養限ニ成ハ実方ノ親族

不法ハ本人ニ定或ハ婚姻可事ス養方ノ親族

司法省

養父母ヲ定式ニ従ヒ後見可為ハ伯叔父姉兄弟姉妹ハ
半減ニ後見可為シ然ルトキハ養方ハ親族後見無シ養
父母伯叔父姉兄弟姉妹ニ方ニ半減シ後見ヤ
一婚後不和別居ヲ願フ者アリテ前方祝後元ハイシテ
後見無シ
一七歳未満ノ小児養親族ハ其ノ実式後見ノ年
月日数ヲ意ニ定メ為ス事
一父ノ妾後見無シ但父妻ハ生母ハ他母ノ後見
ノ如シ
一妻ハ後見無シ但ハ生ニ在ルトキハ
一養子ニ当ルトキハ養方ノ親族他ノ者ニ当ル者ハ後
見無シ
一因性ニ当ル者ハ其性ニ当ル人ハ面接シ後有ラハ
他方ノ後見ノ如シ
一後妻ノ名氏ヲ換ヘタルトキハ多他配偶無シ
本性ニ方親族実式ニ通後見可為シ
一父母妻ノ兄弟其ハ他来ニ後見有シハ其身ヨ
後見ノ如クスルヲ以水次第釋無シ
一居留ニ人方シハ一日シ釋ヤ但ハ如ク
ハ高日モ釋無シ

司法省

一家主方ニ死人有之ハ其別棟ニ仕リ仮宅ニ入
様無之候宅之者方ニ死人有之ハ其別棟ニ仕リ
家主ニ様無之仮因様ニ仕リ家主仮宅ニ其儀
一日の様や
一ヲ中の家或い死之者或堂宅或自害或病死之
者ハ宅ハ家ニ仕リ踏合し様や
一形体者ハ生色ハ不可為生尻形新無之ハ
幾月ヨリて成可為血荒
一半城ハ日数い三十日し忌い十日や服い先ニ准
ス仮三日ハ忌い二日や七日し終い服日や

司法省

以上

最前書付ハ退加し書付ハ改無用ハ退加し延可
申用ハ此書付彼忌本書い高芳ハ通ハ改ハ遠
無ハ日方様可ハ仕ハ仕

元禄元辰年十二月　　大成令

一上野紅葉山増上寺　庫家落ハ時
一産様ハ者ハ相火い行水浴ハ仕奉ハ苦ハ仕
庫門陣ハ入ハ無可仕ハ仕前日書ハ時ハ日望
日火ハて無ハ入ハ供奉　庫門陣ハ出ハ苦ハ

一産穢ヲ者　病兒ニ而産出ル共前日時ヲ分ル
病城ニ居ル者
一灸治仕ルヲ　ヒタヽク灸所数所ニ而ル形水腫
尚重ニ而も不苦
一針仕ルヲ穢無シ仕ル不出血ニ若血杯出ル
共形水腫尚重ク不苦
一産月の婦人有ル去ル少義氣さ〳〵無ク仕ル勤
出産ニ後ル病情ニ付　病城ル不申越ル者ハ
不什用事ニ付　病城ル家類家ニ多ク不苦
一衄血疾出ルヲ又ハ下血有ル者ヲ血止リ仕ル形

司法省

水腫ヲ以て供奉　病門陣ニも不苦
一口中ニ出来物より血杯少出ル後不苦ル形水ニ義
不及ル
一痔疾腫物膿水出ル衣類ニ付ル移ル可ル病供仕
ル苦ル但　病門陣ル者ハ差免可仕ル
一脱肛痔出ル而已膿血水出ル不申ル供奉
病門陣ニも不苦ル自ラ仕ル作礼義不苦ル
一産穢ヲ婦人ヲ前日苦ル分ル四五日火ヲ無シ
ル供奉　病門陣ニも不苦ル
一月水穢シ婦人有ル去ル　病家清シ敬ル分ル

回生回生不仕候ハヽ 供奉 庶人陣 医も不苦候

一忌 庶免し云 釜 城主不苦候 但供奉ハ主

意 可仕候

一後し者 庶人陣 医不苦候

一産月し婦人有之ことの又類に急病人有之ことの

出産又ハ急し後不明ハ 供奉 庶人陣 医

不苦候 自分し服礼も不苦候

一房事 庶人陣ハ第陸 役勤ハ之の六時其外

行水次第不苦候

一ろろ医ハ行水次第 みて 供奉 庶人陣 医も不

苦候 自分ら服礼も不苦候

一けゝゆやまち後血出ことの有しハハ 庶人陣 医

物き不相 退可申候 供奉主意可仕候

一牛馬雞豕犬羊 配変し内ニ死ハ時 新し内

ニハハ其一棟一日けゝれに居庭ニハ死ハハ

解 無之

一牛馬雞豕犬羊 死ハ時一棟ニ多くり有之

入ハ遠ハハ 解 無之候

一牛馬雞豕犬羊死ハ時一棟ニ居合 重し後ニ

ハハ 時六時分 書六時 医釜 城代 当 夜ニ

司法省

入り而之物と申り候ハ高六百俵迄ハ
城付百姓に但高百俵者こ為之半時掛り申と
夜を隔り候て者之通石蔵に
一牛馬雞豚犬羊之外の多獣ハ之より内高
死に共 書の れ無之
一兼て内馬死に り候ハ百俵以内 其作業 城内
使之使用動り申も石蔵に
一牽馬死に 多い事と 城内使し使用お動不
蔵に

食稼之事

一羚羊猿兎狸雞 五日
一牛馬 百廿日
一豚犬羊麻猿猫 七十日
一二度い前日之殺方 殺中多獣に到ハ奥之
回〜
一五辛前日之殺方 殺中多獣に
以上

正月 庫社条之時
一鉄し去い十六日殺時方 退出夕七日 庫社条に

司法省

解　還幸ノ後方角祭可庭出ル

一忌　庭火ハ十五日昔ハ時退出ナリ　庭社家解

還幸ノ後方角祭可庭出ル

一庭社家ハ庭道具後ハ忌見及ハ可義ニ成ル

一恐庭義所ハ火ハ改ルニ及ル

一忌服者解ハ忌ハ日火焼ハ方　庭社家ハ時

庭出ハ彩水仕ハ始ハ不苦ル　但　庭門陣ニノ

供奉或ハ庭役勤ハ者ハ前日昔ハ時ハ日堂

日火仕習ル

一灸仕ハ者ハ組合灸所或所ハ彩水祭前

庭ニモ供奉　庭門陣近モ不苦ル

一針仕ハ者ハ不及差意ハ若但林出ハ彩水祭

前庭ニモ供奉　庭門陣近義不苦ル

一庭門陣ハ供奉或庭役勤ハ者ハ毒釋ノ婦人

ハ前夜昔ハ時ハ日堂日火仕習ル

一庭門陣ハ供奉或庭役勤ハ者ハ月水釋ハ

婦人有ハ者ハ前夜昔ハ時ハ日堂日火仕習

ル

一忌ノ者ハ逢ハ者ハ彩水ニモ清髪洗ニ及ル

庭門陣近モ不苦ル

司法省

一 急病人有之急々致シ不取敢候ハヽ 御内済迄も
供奉仕候而不苦候 尤自分之謝礼も不苦候
一 産月之婦人有之候ハヽ出産之義ニ取計候ハヽ 供奉不
苦候 但 御内済へ喜悪可仕候 尤自分ニ而謝礼可
憚之
一 産月之婦人有之との事にも気さし急し候ハヽ
御勤役出産候節ハ御傍之内 御掛ニ而申職
候へハ右之外御用筋 御掛ニ而家事等之儀ニ而不
苦候
一 痔下血淋病梅毒腫物ニ而出療致ニ付候ニ付而ハ
供奉仕候分ハ不苦候 但 御内済ヘハ喜悪可仕
尤自分之謝礼も喜悪可仕候
一 脱肛病出候ニ付而も膿血水出候事候ハヽ 御内済迄
供奉仕候義不苦候 尤自分之謝礼も不苦候
一 皈血瘀出候ニ付又ハ大下血有之との事ハ血留ニ而不
行兼次第供奉 御内済迄不苦候 尤自分
之謝礼も不苦候
一 此中之出来物ニ而血膿出候節不苦候 行兼次
も不及候
一 此出物ハ之し又ハ毎之し 添出候ハ行兼次第ニ而

司法省

如死出ル者ハ可著ハ無出ル者ハ三石川くより
肉ハ不著ハ三石川くよりハ者ハ者のれニ所成
り分ル者仕　庶肉除ハ也ハ借事可仕ハ也自今
此所礼ハ可著ハ

一庶事　庶肉除ハ条法後勤ハ之ハ十二月ハ
しゝ可申ハ

一石石川ハ彼者ハ御賞ニ而　庶肉除ハ也ハ借事兼自
今此所礼ハ可著ハ

一きゝハ彼牛ハ無出ハ者　庶肉ニ而れ
申ハ様ニ退可申ハ也借事ニ可仕ハ

司法省

一牛馬雞豚犬羊屠殺ニ而死ハ時彼肉ニ而ハ
り〳〵其一株一日けゝれハ若庭ニ而死ハ〳〵掃毎
ニ

一牛馬雞豚犬羊死ハ時一株ニ而ハ石ハり有ハ入
口ハ遠ハり〳〵掃無ハ

一牛馬雞豚犬羊死ハ一株ニ肉ニ成ハ
ハり〳〵時ハ時より著ハ也ハ也登　埋仕ル者ハ
ハ入ル者ハ働ハ入ル者ハ著ハ時ハ也登
埋仕ル者ハ他ハ登候ハ也ニ縦事ハ〳〵ハ入ル者
登候ハ隔ハ〳〵者ハ可著ハ

一牛馬雞豚犬羊之外の名獸たりとも別段届出て
死り方稟無之
一兼ねて因馬死りて家産傾敗仕候ハヽ　体
庶流と庶用勤り方不苦ハ
一牽馬死り方ハ速届
苦ハ
一五月十二月　所社家ハ別　庶流と事四月と
同断
一四月六十二日　新六時より後ハ遅ハ十七日至七時
方方御家可庶出ハ苦外ハ四月　庶社家

司法省

ハ時と同断
一九月庶流ハ月と同断
一二月新ハ　庶流　庶流家義前ハ　庶社家と通
の庶流ハ後ハ苦ハ　庶流社家山ハ綱ハ
庶方有ハ可庶出ハ

食稟之事

一羚羊猿兎狸雞　五日
一牛馬　百五十日
一豚犬羊鹿猿猪　七十日

一如是ハ前日ヨリ御達ノ時ヨリ御中間ニ
一五辛前日ヨリ御達ノ時ヨリ御中間ニ

以上

正月四月九月 共 毎月十六日 庶官
庶名代ヲ 作付ノ別 共十七日 庶名代御系

御目見庶官ノ事

一十六日御出ノ時ヨリ彼ノ屋敷 庶名代ヲ
作付ノ已後ニ右御役ヲ登 城可仕ハ

司法省

一庶名代ヲ始メ庶道具彼ノ家見及ハ不苦ハ
一庶名代ヲ始メ出仕物ハ又ハ出ル物
行水ノ後ニ物ハ出ル
三方つくよりの内ハ不苦ハ無出ル物
樽ニ成リ行水不苦ハ
一庶名代ヲ始メ出仕ヲ中ノ物出無ノ後
有之ハ行水ニ及不苦ハ
一忌服産穢ノ者同社同火行水不苦ハ
庶名代ヲ始メ忌服産穢ノ者同火ニテハ
前日堂ノ時ヨリ行水不苦 庶名代

仰を兼て苦しい

一産婦より婦人を回生回生又前後著しく改

可申し但　産婦代りとも同断

一月水と稀有と志満日数六日目に回生回生ニ而

無之

一しゐ　形水次第産出不苦し但　産婦代りとも

ハ多　作付に前日と著しく月水稀なと

と回生回生お改可申し

一灸仕し石根灸所或所ニ而又形水次第満生

ても不苦し　産婦代り志も同断

司法省

一針仕無之　産婦ニ不及し若血抜出しハ

形水次第満生ニ而も不苦し　産婦代りとも同断

一忘て者違ひ石義形ありて清髪ニ而又し

産婦代りとも同断

一産月婦人有て志又又為商人有て志出産又又

忘り後不形ひ　産出ひ分ハ不苦し但

産婦代りとも志ハ産意可仕し

一産月より婦人有ることの如き産さし無之ハ

お勤出産仕し後ハ清清り月　産婦ひ分申或

ひ　志ひ分不仕用事ニ付　産婦ひ家来

いろハ不苦い

一痔下血腫瘍後物膿水少出候類ニ付ハ程近ハ
不苦い 但 庶民代ニ糸ハらとのハ毒可仕い

一脱肛痔出ハ可義膿血水出ふ申ハへハ
庶民代お勤ハ可義不苦い

一血疾出いとの又ハ下血有之者ハ血留りハ而
彩水次第お勤不苦い 但民代も不苦い

一きうりやまうり仕いとの血出ハり 但兼ハ可
慎い 庶民代ハ者血し色見申ハて彩水
仕お勤可申い者 但民代ハ者自ら者ハのハや

司法省

まうり仕血出ハ共出時程隔ハり彩水次第ふ苦
いハ少血ハ而出ハ程ハて彩水ニ義ふ及い

一庶事ハ 庶民代ハ者古ハ
一ハ石川の子彩水次第ふ苦い 庶民代ハ者ハ
彩

一牛馬雞豚犬羊病ハ者ハ死ハ時彩ハ者ハ
てハり〳〵 青一株一日し採若庭ニ而死ハり〳〵採毒
ハい

一牛馬雞豚犬羊死ハ時一株ハ者ハ者ハり有之
入ハ遠ハり〳〵採毒ハい

一牛馬雞豕犬羊死ハ一株シ内ニ居合ヲシ後ハ
ハ六時分著六時近登　城仕事ニ後ヘ入ヒての
後ニハ八ツ著六時より八ツ六時近登　城仕事ニ
ハ但シ夜昼共ニ組ヲ時ハ八ツ半ハ事ニ夜ヲ隔ハ
一ハ夜ヲ通シテ不苦ハ
一牛馬雞豕犬羊ヲ外の多獣たとへ鼠より内ニ
死ハ共穢無之
一乗ハ内馬死ハ八ツ宿ハ屋敷ニ而ハ穢ハ
登　城庭掃ハ庭用ヲ勤ハ不苦ハ
一牽馬死ハ多ハ毒ニ登　城庭掃ハ庭用ヲ勤ハ
而も不苦ハ　庭名代ヲ勤ハ不苦ハ

司法省

食穢ヲ事

一鶏羊猿兎狸雞　五日
一牛馬　百廿日
一豕犬羊麻猿猫
一武ヒハ前日ハ六時分迄中ニ登ハ迄ハ奥
二回
一五辛前日ハ六時分迄中ニ登ハ

元禄三年午四月十九日　大成令

去ル年ヨリ　作出候法改書ヲ用ヒテ條改ル事ヲ

従法司付中所ヘハ令ス

一正月四月九月　并毎月十六日　庶官

庶名代ヨリ　作付ハ別　并十七日　庶名代ハ

法司見法情ヲ事

一十六日　新六的ヨリ彼ヘ志退出　庶名代ヨリ

作付ハ公後方右次第登　博士日書ヲ的退出

十七日　庶名代方海ハ公後方右次第登　城可

付ハ

右ヲ通　庶名代法情ヘ書付可ヲ遣シ

司法省

元禄十申年十月十日　大成令

一忘書ヲ後ヲ　作出ヘ証書付或通調ヘ

大目付法目付方ヘ

一子無ク死去ハ志名跡方後ヘ書ヲ　跡継ヲ

内又ハ他人ヲ養ヘ願ヘ　家督

方後ヘ書ヲ　後忘可事ヲ死去ハ志ヲ

妻ハ養母目付ヘ　死去ハ志ヲ　七日内

二ハリ〳〵彼無之十日達可仕ハ死去ハ之ものゝ
親類文右衛門ハ家ニ宝式之彼忘の妻し妻ゟ
親類ハ父母し宝式し彼忘の妻し伯叔又姉妹
姉妹文半歳之彼忘の妻之卯し彼ハ相手ニ
彼忘無之
一養子証書差出年季内取之其分後死去ハ
り〳〵家督ハ家ハ作付ニ而後死去ハ日より定
式ら通ル十日十三月し忘彼の妻之
改葬　達忘一日
子文右衛門達忘仕右兼ハり〳〵遠ハ文達忘
忘地ハ証書改葬ら傷ハ屋出ハ達忘こう仕ハ
不屋出者ハ又乃達忘ハ忘右排証書掘出他人
矣家来ハ其場へ屋出ハ其ハ文達忘ハ保改葬
ら主と屋敷ハり〳〵他人家来ハて義一日達忘可
仕ハ

司法省

附地記ハ日より葬ハ日遠ハ幾日有しハ
其達忘無之葬ハ日斗一日し達忘や

元禄六酉年十月廿日　大成令

高家元　侍従元　侍養者養元　寺社奉行元

詰元兼〻元　大唐番陜

右差含し時子系中し日数并毋方ヶ沃奥ニ書付

月番ヶ老中ヶ向後可ヶ差出事

老中文政　　同ヶ

唐彼人元　　大学寮

右ヶ面〻差含し時文奥ニ書付毋方し後とも認

大目付中返指出ヶ候可ヶ為達事

以上

十月廿日

司法省

元禄六酉年十月廿八日　大成令

覚

唐書院番陜　唐出勤組番陜　新唐番陜

百人組ヶ陜　唐船ヶ陜番陜　出張役

想唐ヶ唐鉄砲陜　唐船番陜　唐使番

唐徒陜　中人組番陜　唐目付

西丸唐裏門番陜　唐納戸陜　唐腰物奉行

唐鉄砲方　二丸唐留守居　中奥元

文政毎ヶ寄合　中川唐番　唐旅筆

庄屋勝奉行　庄屋区所　書物奉行
小普請奉行　道中奉行　岩間出張奉行
神田庄屋小普請　御者　医師
庄馬役方　伯楽方　庄細工所
庄鉄砲　庄蔵所役　庄同朋
庄数寄屋役
右之面々差合之時ハ其二書付母方より後ともに
月番ニ為年寄医差出可申事以上
十一月廿八日

司法省

元禄六酉年十二月廿一日　大成令

服忌令

一父母　忌中十日　後十三月間月番ニ
一養父母　忌三十日　後百廿日
送孫ハ後或多世孫面々嫡子ハ実父母ニ
同様ニ可致ニ付忌ハ嫡子ハ実方ニ親類のごと
ク服忌ニ後忌の更ニ実方代親類ハ父母ニ定式
より四後忌の為ニ養父母伯叔父姉ハ半減より後忌
この為ニ兄弟姉妹ハ半減より後忌の為

以前ノ親類ハ後ニ無ク遠隔ニ後世ス或ハ地
理尚世ニ在ルハ因縁ヲモ系統ヲモ皆父母ハ定
式ニ通後ニ子ノ事ニ皆方ニ婦人ハ夫ニ
ト成シ後ニ子ノ事ニ以前ノ親類後ニ無ク実
方ノ親類ハ定式ニ通ズ夫ニ後ニ子ノ事ニ

一嫡母　忌十日　後三十日

財面無クシテ不可更後ニ通ジイク
財面無ク共後ニ可事父死ニシ後他ニ嫁
或父離別スルニ於テハ妻ニ可更後ニ他
嫡母シ親類又後ニ無ク

一後父母　忌十日　後三十日

初ヨリ同居セサレハ無後ニ
一父死シ後後母他ニ嫁シ或父離別スルニ於テ
ハ不可更後ニ他後父母ノ親類ニハ後ニ無ク

一離別ノ母　忌十日　後十三月同日ニ於テ
一夫　忌三十日　後十三月同日ニ於テ
一妻　忌二十日　後九十日
一嫡子　忌二十日　後九十日
家督ヲ定ムル時ハ嫡子シ後ニ可更ノ如ク

司法省

家初ニ生ヒたるも亦之準す

一 末子　忌十日　後三十日

養子より生れし子養父母忌義別るゝ事智と定時之

隔るし後忌可更之

一 養子　忌十日　後三十日

家督と定る時之隔るゝ後忌可更之

一 夫し父母　忌三十日　後百十日

一 祖父母　忌三十日　後百十日

一 妻方　忌二十日　後九十日

離別せゝまい祖母を後忌無別後

一 曾祖父母　忌二十日　後九十日

妻方より後忌無ゝ但主家一日

一 高祖父母　忌十日　後三十日

妻方より後忌無し但主家一日

一 伯叔父姑　忌二十日　後九十日

妻方　忌十日　後三十日

父母稚智と兄弟姉妹ハ半減後忌可更之

一 兄弟姉妹　忌二十日　後九十日

別後定りといふとも後忌之無義別

一 兄父兄弟姉妹　忌十日　後三十日

司法省

一曾孫　忌十日　服三十日

曾孫兼祖父母ハ曾孫ノ妻ハ服ノ如シ　祖父母死
去シタル曾孫ノ妻ハ十日　十三月ヲ服忌可更
シ然シ親族服忌無之別当孫幼孫ト
いとこ同例シ

一玄孫　忌三日　服七日

如子ニシテ実ノ子ヲ生ルトモ玄孫ニ準ス孫方ノ孫
服忌同ジ

一曾孫玄孫　忌三日　服七日

孫方ノハイ曾孫玄孫共ニ服忌無之

一従父兄弟姉妹　忌三日　服七日

父ノ姉妹ノ子共母方ト服忌同ジ

一甥姪　忌三日　服七日

姉妹ノ子ト服忌同ジ

兄弟ノ姉妹ノハイ半減ノ服忌ノ如シ

一七歳未満ノ小児ハ無服忌

父母ニ三日未満其外ニ親族ハ同断ニテモ実
ニテモ一日未満日数ニ準ジ追而ノ改
未満忌ハ八歳ノ定式ノ服忌可更ニ

附　七歳未満ノ小児ニ対シテモ服忌無之

父母死去之時ハ五十日喪為致し報告之
一日喪為致又母ハ年月を終る所ハ
付ル日ヨリ五十日喪為すべし

一聞届之事

喪届之儀ハ死去年月を終て告来たるとも
父母ハ分付る日より届五十日後十三月外
の報知を聞付候日より後届遅る日数可更之
届之日数を以て告来るハ一日喪後ハ共因
芳

一重ル後届之事

父之後届いまゝ不明母し後届有之ハ如し
死去の日より五十日十三月の後届可更之
ハ記後届之内ハ万一後届有之日数終ハ過
不及更後届日数ハ五ハ遅る後届之日数の
更之

司法省

職之変

一産穢　夫七日　婦三十五日

喪届より告来七日を以り穢無之
七日之内ハ日数し穢ある〻　血荒
流産日数ハ産穢の時も同断

一血荒　夫七日　帰十日

一流産　夫五日　帰十日

形体有之ハ可為流産形体無之ハ可為血荒

一死穢　一日

家之内ニ為人死ハ始一軒之居合ハ共不拘
之数居を隔ハ穢無之ハ一軒ニ居合ハ共不拘
ハ始之穢無之二階ニ成ハ揚ハ敷居し命ニ
有之ハ穢無之ハ家主ハ之人者之時ハ
其殺有之ハ穢ハ家主死去ハ家族死殺ハ後
差別無之死後ハ知ハ殺有之ハ共

司法省

踏合の穢や

一踏合　約水次第

一改葬　壹急一日

ゐは涉壹急他不兼ハ遅而不及壹急ハ
忌掛りハ親類改葬之場へ出ハとのハ壹急す
〃忌不掛親類ハ其場ニ出ハとも不及壹急
ハ改葬しを不成ハ他人ニとも一日壹急す
〃

附箋記ハ日より葬ハ日迄日数有之ハ
ゐは不涉箋記ハ日と葬ハ日と二日ハ壹

意し他人をもて改葬之主に成りたるものハ
同所但婚記に望日より葬ハ前日迄数日
をもて不及達意
改葬し後達所をもて中付日限なりて其日達意
一日限不存お仲ハ後日なりて迄初不及達意
追加
一養父死去以後養母同居せすと云とも他ト嫁
せすハ後ハ他ト嫁すハ後ハ此の更て他ト嫁すハ於て
ハ後忘無之
一養父ト妻言りもさ法以前に死去ハ後ハ婚母ト
准一其親類後忘無之
一妻後ハ子婚母死去以後後妻と通婚いたしい
ハ対面無之とも後母と後忘可更ス
更ハ養母定却一後忘可更ス
一義絶ハ婚子ハ後忘ハ事子に可准此外ハ親類義
絶ハ婚ハ後忘無義別
一家後更ハ恩物き養子ハ多地配当と可為同等
一遺跡お後ハ言子又実父ハ多地とも更ハ言
方実方ハ親類面接者ハ懇望ハ一お年に定
式ハ通後忘ハ更ス

司法省

一養子為致ものの実方の縁母ならでも継母ならでも
養育を請かり送跡お後し養ふ縁母継母
出減し後忘可致し送跡お後せさる養ふ縁母
継母定式通後忘可致
一女子縁組ようり養りき或入聟を家督お
後ら時ハ養方ら親類実化ならず表ニ後忘
可致ら

一縁組未お調ハらでも祝後取なしらハ夫婦
お生ニ定式ら忘し日数可達意但後無ら
一父ら妾後忘無ら但父妻ら産ける時ハ継母の後
忘可致ら養ふ為るものの養父し妻も同例
一妾ハ後忘無ら但ふる生ようおひらハ三日達意血荒
流産ら外ハ妾死去し時達意無ら
一送跡お後せし或ハ地頭ハ養方化
兄弟姉妹他家ハ別一家ふるものよハ表
ニ後忘無ら
一同姓ニても弟姉ハ人ハ面換の仕ら者
らハ主紀方の後忘の更ら
一名字を換ハ外ハ表ニ後忘無ら布姓ら
方化親類定式し通後忘の更ら

司法省

一父計ヲ養子ヨリリ母ヲ養ハ彼忘無ク母ヲ養シ
養子ニヨリリ父ヲハ彼忘無ク父ヲ養子ハ父
ヲ親類ヲ彼忘ヲ可更ク母ヲ養子ヲ養方
ヲ親類ヲ彼忘可更ク但養父ヲ養子ハ
ヲ時養子ヲ因居ヲ彼リリ三年日ヲ経ス養
母ヲ夫ヲ因ハ彼ヤ父ヲ養子ヲ養子ヲ母ヲ養ヲ
ヲ養兄弟姉妹ヲハ彼忘無差別

附子ニ付テハ

一子無ク死去ヲ名跡ヲ後ノ者親類ニ家督
ヲ後ヲ者ハ父ノ如ク彼忘ヲ可更シ死去ハ
者ヲ妻ハ者母ヲ可准ク死去ヲ七年
未婚ニヨリリ彼忘無ク年日ヲ経ス
死去ヲ者ヲ親類ハ夫ヲ定式ク彼忘可更
ヲ家方ヲ親類ハ父母ハ定式ク彼忘可更シ
祖父母伯叔父姉ハ年齢ヲ彼忘可更シ兄弟
姉妹ハ夫ヲ年ニ年齢ヲ彼忘可更ク此外親類
彼忘無ク

一養子願書差出ヲ老中ヲ取ク其後死去ヲリ
家督ヲ定ル内ヲ養者父母ヲ年五十日十三月
ヲ彼忘可更ク

司法省

一半城之日数三千日之十者し脇い進之
但七日ハ四日や三日之二日や
一一日之者之ハ尚夜これ之なるより脇ハ夜ら之なる時
迄や九ツ前ころくいたるハ四日ニ之も一日ら被
や
元禄二年十二月廿一日
元禄八亥年九月廿八日　大蔵省
賞
一紅葉山　席社家　山王社　席家格ら時斗
席本九回芳ニ而九之て彼改可申変
一紅葉山　席名代　喜斗仍方ら之　席家格又之
席名代ら時　茂而九之て彼改ニ而及り変
一紅葉山　席佛殿　席家格ら茂日光
席宮　席名代　御家　席同見者之而彼席改
ら時茂紅葉山　席佛殿ら彼之者長戦山茂
り事
以上

司法省

元禄十一寅年六月廿日　大成令

股忌令追加之書付ヲ　作出し因茲大目付兼
庁同付より伺向ヲ書付ヲ股ヲ

一浪方ヲ孫婦妹方ヲ聞糺又ハ婦妹ハ従弟ニ種
替ヲ以ル母方ニ准ヲ

一父母養子之条ハ引取ル後ハ伯叔父妹ハ三日之
忌七日ヲ股可受ヲ

宝永七寅年三月七日　大成令

一庁先代庁ニ従ハ後絶祥有之ヲ至ル事ニハ差支事
茂有之ニ付而庁ヲ通ヲ拵ヲ可紙名捺日光准后
ヲ　作進ル旨向後如何可有之哉伺ヲ書付
被ヲ

覚

紅葉山　庁社家ニ義忌後兼釋ル者
庁社家前日書ヲ以ル退出　庁社家当日
還庁以後登　躰可仕ル支

一供奉兼庁役勤ル面々ハ前夜より精進因以ヲ
殺生ヲ以水登　躰可仕支

一忌股兼釋ル者ハ無拠用ル義ハ命換延庁出役

司法省

文石著名事

一二月廿九　庶鏡　庶頂戴ニ付庶達ス候
庶社案ニ付ニ可お伺い　庶鏡　庶頂戴お願
ひ文忠彼兼釋ス志願　願可仕ル事

一庶官　庶各代ス　作付ル芋忠彼兼釋ス志願
旨し願　庶目通ル屋出ル後文美拙可中ル退出
ニハ不及ル庶各代お願　庶目通ル可屋出
ル事

一庶各代伺案言上し芋茂右同断

一庶各代お勤ル事の芋夜分精進致ル分当日

庶各代可お勤ル事

以上

司法省

三月

一山王根陣　庶社案当日忠彼兼釋ス志
庶目通ル屋出ル後美拙可中ル退出ニハ及ル
還庶ル後　庶目通ル可屋出度

一回案礼　上覧し芋服ス志　上覧不ル美拙
不及退出ル度

一回庶各代ス　作付ル芋　庶各代ス志当日し願
精進い当一　庶各代可お勤ル事

一同席名代ニ　仰付ル者日し　仮名彼　兼稱ス
席同通義相退出ハ　ハ　席名代ニ　相勤ル
席同通ニ可成出事
一同席名代帰宗言上し義　前右同断
以上
三月

宝永七寅年八月二日　右成合

覽

一聖堂　席番ニ付席供ニ勤ル者及精進ノ事

司法省

一同苗日ニ付より　還俗延後願ニ者　兼父母
ニ稱忌ノ苗ノ者　但喪ノ母ハ延ル後
席同通義相可申ニ

正德四年年二月廿九日　右成合

覽

一日光奉行ニ勤ル内
席官　席靈屋孔ニ義前日若ハ時分精進
可致ハ

一 帝宮 唐靈廟ニ見廻ニ唐出ル若ハ當日能ク
精進ス
一 唐昊廟ニ唐出 專ニ 唐宮ニ案ハ若ハ佛礼ヲ勤
ムリ〻 彼多可能ハ見廻ヲ 唐宮ニ唐都ハ今
ニ而又而及彼水ハ
一 日光奉行左山ニ内高ニ成ハ而茂 其後ヲ勤ル廻
苦中誠ニ苦ハ左而茂 ニ而茂
帝宮ニ地震ヲ水常ニ若見但ニ唐誠ハ彼ニ若ハ
一 郡来共能主忘ニ而茂 ヲ唐ニ而及若廻長唐ヲ若
盃別火為ニ落ハ 不若ハ彼ニ若ハ清ハ若も唐仕

司法省

不若ハ左而及別火ハ
右日光進后ニ唐尋ニ如ハ彼若ヲ書付出ル
向後ニ唐様可ニ心得ハ以上

二月

日光帝名代唐宗礼奉行ニ 作付唐誠ハ聞ク
唐昨ニ 作出ハ日又ニ発足 日ヨリ唐中往来
郡来近精進 仕ハ中 若ニ通ニ而ハ 歩ニ玉若又
ハ後可有ニ付而 今度日光進后ニ 唐尋ク
郡 道中上下 昼又日光旅宿自今 郡来ヲ
ホ而及精進ス 唐名代ヲ勤ハ前日若ニ付ヲ

精進仕候者ハ當日ニ而勘精進仕候者ニ付白米
左之通可申渡候間可申達ハ

以上

二月

正德五未年三月　大成令

元禄十三辰年上野浅草ヲ尋差ス書付

一今度唐法事ニ付日光ヘ来ル輩ニ下書ニ而彼
先ハ他国より所中城ヲ預ニ成ル者人有ル所ニ
日光山中ニ加論　御宮ヲ所ヲ所ヲ所ヲ所ヲ

司法省

武ヲ変

者人ニ而彼ヲ武ヲ所ヲ所ヲ所ヲ所ヲ所ヲ
一聞ニ而彼ヲ彼日光ヘ来ル者ハ他人所ニ有ル者人さく
不中ヲ所ヲ者人探方ニ有ル者ヲ加論他人ヲ
彼所ヲ所ハ探ニ成ル者武ヲ事
者人ヲ彼所ヲ所ヲ探無ニ他人ヲ
彼所ヲ所ハ探ニ成ル
今度日光山唐法事ニ付ヲ武国ヲ古俗書ヲ
証ヲ四ヲ所ヲ預何義ヲ可申達ハ

三月

享保二周年十月二日　大成令

御社家　並　御宮　御名代ヲ　御代ヲ義

虎情ヲ彼宮ヲ以七宮年ヲ　御出ニ過ニ以習ヲ

存其報向ニ可ヲ達ニ

十月二日

享保十八丑年七月　大成令

御宮　虎年諸ヲ別　藤家又ヲ陽信ニ表ニ

表懸物多ホ懸ル出書茅ホ附療治ヲ内ニハ

司法省

御厩敬近ニ勤仕ヲ安ハ　勅願陽門外近ニ

陽信ヲ石芸ニ右痛ニ付紙ヲ張中程ヲ変ハ

意ニ応ル

但平癒近齊茅ハ付ル其内ニ茂紙蓋ニ

表附ニ程ニ後ヲ張ル　ニ芸

元文元辰年九月十九日　大成令

彼忘令近那蛇度　林大學頭喜外儒者芸ヒ

味ヲ　作付ヲ書加ヲ表際或有畧ヲ所義有

ヲ以ヲ令近ハ彼忘ヲ後陳所ニ林大學頭ヲ

那令ハ
ハニ不及紙面ニ
難仰付ハ
向後差掛等ハ
一所ニ
有之ハ
ヨウ可被心得可申候

元文元辰年九月　大阪令

貸忘令

一父母　忘五十日　貸十三日
一養父母　忘三十日　貸百五十日

送跡ハ
回性ニ
或ハ
忘可更ニ
ニ外シ
地所
宗式ニ
減ニ

送跡ハ養子ハ実父母のごとく
養方ニ親類ニ父母ハ
父母伯叔父姉ハ半減シ貸
兄弟姉妹ハ半減ニ
親類ハ
養子ハ
養方ニ兄弟姉妹ハ半
親類
実方ニ

司法省

一隠子忌三十日後五十日
家督と定メる時ハ
忌ゐし後忌可為
女子ハ家初ニ生まれても
忌ゐニ准ス

一赤子
忌十日後三十日

養子ニ出ル者
後忌義別ゐ
家督ゐ定まるとき
ハ隠子の後忌可更
ス

一夫ス父母
忌三十日後百五十日

一祖父母
忌三十日後百五十日

母方ハ
忌三十日後五十日
離別ス子れハ祖母も
後忌義別ゐ

一曾祖父母
忌三十日後五十日

母方ニハ後忌無ス
但妻ス一日

一高祖父母
忌十日後三十日
母方ニハ後忌無ス
但妻ス為一日

一伯叔父姑
忌三十日後五十日
母方
忌十日後三十日

親類ス定ス或ス通ハ家ニ後忌可為ス

一嫡母　忌十日　服三十日

対面無ス ハリ不可更後忌通ハいス ハリ対面
無ス共服忌可更ス父死去ス後他ハ嫁 或又
離別ス ハあハてハ妻の子不可更後忌隠母し親
数ハ後忌無ス

一継父母　忌十日　服三十日

初より同居せハれハ無後忌父死去し後継母他ハ嫁
 或父離別ス ハあハてハ不可更後忌但継父母
ス祖数ハ後忌無ス

司法省

一離別ス母　忌五十日　後十三月家督ス

一夫　忌三十日　後十三月家督ス

一妻　忌二十日　後九十日

父母種替ス兄弟姉妹ハ中城ス後忌可為ス

一兄弟姉妹　忌二十日　後五十日

別腹ニハ ハ後忌ス無義別

一異父兄弟姉妹　忌十日　後三十日

一隠孫　忌十日　後三十日

隠孫義祖父母隠孫し後忌可為ス祖父母死去
ス時兼隠孫ス家ハ五十日十三月ス後忌可更ス

此外し親類縁忌等別なし曾孫玄孫每りとなす
忌日仏し

一 玄孫　忌三日　後七日

如何は玄孫小生れざること玄孫之後子孫方し孫後
忌日無

一 曾孫玄孫　忌三日　後七日

孫方の曾孫玄孫共之後忌無之

一 従父兄弟姉妹　忌三日　後七日

一 父し姉妹の子并母方も後忌日無

一 甥姪　忌三日　後七日

姉妹らるも後忌日無

是父兄弟姉妹し子ハ出城し後忌可更之

一 七歳未満小児ハ無後忌

父母之三日喪無其外し親類ハ日数ヲ重ねて
ても一日喪忌日数を取り近而百日喪但
八第より定式し後忌可更之

附七第未満小児ら方ら義後忌無之父母死去
ら時之十日喪其外し親類ハ一日喪忌
父母之年月を後而取りても分る日より
十日喪すべし

司法省

一聞忌之変

遠国ニ有之ハ死去年月を絵図等にて届ケ

父母ハ聞付る日より忌十日後十三月命し親類ハ

聞付ル日ヨリ後忌残ル日数可更し忌し日数ニ届ケ告

来ハ一日届ケ後忌明ル日ニ

一重服後忌之変

父之服忌いまだ不明母し後忌有しハ母し死去

之日より十日十三月し後忌の更之重祝後忌

し日より後忌有し日数後ハ追而及更服忌

日数何れハ残ル後忌し日数可更之

司法省

職之事

一産穢　夫七日　婦三十五日

届より差来七日ニ成り穢無し七日し内水ル

残ル日数の穢之る〻し血荒流産日形仕無し

産穢之時黄日例

一血荒　夫七日　婦十日

一流産　夫五日　婦十日

形斜有之ハ可為流産形無之ハ之為血荒

一死穢　一日

家し内ニ人死ル時一日ニ居合ル死穢可更し

御屋を陽にくい稀無く一習に屋舎に共不存ものい
稀無く二階よりも揚り口発屋し外に左しにくい稀
無くい家なるく変よる死人なく時い其殿有く地升
稀い家主死去に付死稀く義義無く死後
其所に無い家い殿有くに共踏合し稀や
一踏合　形水　望月
一改葬　壹度　一日
ゐい不渉壹度他不形にて遅ふ及壹度い忘掛
い親類改葬く場に出るものい壹度すべく忘不
足殺類い其場に出に共壹度に不及い改葬し

司法省

主に成に共他人よりも一日壹度与度〜
附帳記に日より葬に日近日数有くにて
ゐい不渉帳記に日と葬に日と二日く壹度
他人よりも改葬し主よりなりにものい日形
他帳記に翌日より葬に前日近数日よりも
ふ及壹度い
改葬く後壹所ゐて中付日限有にて其日迄
壹すべく日限ふ落お掛に後形りにて遅ふ
ふ及壹度い

元禄六年十二月廿一日　　大成令

追加

一養父死去以後実母国元へ引取申候ともかつて他へ不嫁以前ハ後妻可申候他へ嫁す新ニ取ハ後妻無之

一養父之妻言いれさる以前ニ死去いたし居申候ハ進し其親類後妻無之

一父之後妻と通所い申しいたし財産無之共後妻し後妻可申候

司法省

一義絶之時ハ子し後妻ハ未だ二の産之以前し親類義絶といふとも後妻別後なし

一女子嫁以前ハ嫁ハ言ひ或ハ入聟を取家督お後ハ嫁ハ言方し親類実のとく家ニ後妻可更之

一嫁後未だ閨内よりも夜後元のごとしいたハ夫婦お子ニ実式し高し日数可事

但嫁後無之

一父し妻後妻無之

一妻ハ後妻無之但子生まるあるとハ三日産後無

相違有之ハ其死亡之節ハ家督無之

一遺跡お後せす或ハ名跡弟当せす若ハ若ハ

兄弟帰跡他家ヘ養ハ養ハ養方ヘ

ヘ因縁ヲ以ハ兄弟ヲ人ヲ相模し後有之ハ

行方し後忘可致ヘ

一名字を換ル事ハ兄弟ハお乗ニ後忘無之市姓ヘ方

の親類宗式し通後忘この変ヘ

一離別ヘ如いたし実ヲ有之ハ他ヘ再縁ル共再縁

縁きれル後お乗ニ後忘無ヘ

一ヲ無ヘ死去ルとの名跡お後の者ハ拠ニ家督

お後ヘ時ハ養又のヘ後忘可致ヘ死去ル忘

の書ハ養母ニ可准ヘ死去ル忘七年未届ル

後忘無ヘ出十日ヲ届ヘ死去ルとのし親

類ハお乗ニ宗式し後忘可致ヘ実方し親類ハ

父母ハ宗式ヘ後忘可致ヘ祖父母伯叔父跡ハ

半城ヘ後忘可致ヘ兄弟帰跡ハお乗ニ半城し

後忘可致ヘ如斯し親類後忘無ヘ

一養子願書差出ヘ発申後ヘ事仮後死去ルハ

家督不定内ヘも書又母牛 十日 十三月し後

忘可致ヘ

司法省

一半歳ヶ日限三十日ハ十五日や後ハ准ス

但七日ハ四日や三日ハ二日や

一一日ヶ月ハ前夜し九ッ時分後夜の九ッ時迄し九ッ前ニ百ハ多くハ半ヶ月ニ一日ヶ積や

右十六ヶ條元禄六年迄加ヶ用や

今般御省略ヲ書載ス

一妾腹ヶ子其父病母後母ハ実母ハ定むる時父忌中日限十三月ヶ父ヶ母方し親類し後忌

嘗方し養別家督お後し嘗ハ代ヶ百ハ

婚母し子後母し後忌ハ婚忌ハ

右ニ付一但後母方し親類ハ服忌無ス

一家督お後し嘗ハ嘗るとの実方ヶ嘗母婚母後母後忌無ヶ名地跡前ヶ嘗ハ者し後忌可更ス

一養方ヶ伯叔父姉兄弟姉妹人ハ嘗ヶとの八半歳ヶ後忌この更ヶ実方し伯叔父姉兄弟姉妹他家

より嘗ハ代ヶとのも婚忌無義別

一其ヲ養子ニ系実方し伯叔父姉兄弟姉妹ヶ用

人ハ嘗ハ代ヶとハ其後半歳可為後忌

一父養子ヶ嘗ヶ人し嘗子ニ系ヶ的ハ父し父母兄

弟姉妹嘗実ヶ中ニ半歳し後忌可更し或父も

司法省

養子其身も書ふし的ハ養父と実方暇忌無之若
実方ニ付而半減と暇忌可更候者とハ暇忌可更
と

一半減と暇忌ハ祖父母伯叔父姉兄弟姉妹者とハ
母方と祖父母伯叔父姉妹兄弟姉妹しに例
一偏子を人の養子ニ遣ハ暇忌書ふしとと毎る度
右ヶ條更増補と

元文元辰年九月　大成名

別紙條書

一父妾を妻ニ准ハ忌暇しヶ條此度ハ除ハ従
共享保十八年妾を妻と改り後可為無用者
ハ　作出ハ仏事ハ届置ハ者ハ近し通毎る
べくハ

一父母と養子母母しに書ふ忌暇しヶ條此度ハ除
除ハ従共享保十八年ハ只今近し通毎るべくハ

九月

元文元辰年十月十九日　大成名

此度暇忌令追加しに内ハ除加ハニ付先達毎もお

司法省

編に通難仕候所ハ状首大目付伺ひ申し候に
付形令お礼並可申中に若状首礼不並義掛尋
ら候成御もとり可為不急に先延引し不急及可
形届ら旨状令可申届に
有之趣諸令し面々ら等し可申お達に

元文四未年九月八日　右成令

目付衆礼奉行可申　作付面々前に彼釋等
し後お尋ヤ別　近来頻病所お〻引及数多に
向後文押立に始又文　長病ハ者別一通し引〻

司法省

ふ二ヲ文可申　作付に百姓地ら お誠難お勤に
い〻家来牛義出ら候可申心切に
有之趣等〻可申通に

寛永十二癸亥年十月廿一日

一物頭番頭其組并同心御用ニ付前廉如ニ仰出
候通ニ改々可申上候ヘ共ハ其ヲ以ニ詰ニ六人ニ
者ヲ以可申上組御用兼日毎月三日九日十八日
廿三ヶ日ニ仰定ル日右ニ日御用番ニ方ヘ
来ル十月差留御用ニ付ハ其ニ日番ニ方ヘ可
申旨諸番ニ物頭ニ面々諸役人ヘ於御白書院
申渡ス

司法省

大炊殿役ニ後加賀守殿中志摩守対馬遠江守後ニ
申渡ス

正保三戌年五月十日

一ニ役ニ者番ニ御勘定方四人ニ役人大目付町奉
行右ニ面々日来ニ奉公ニ従朝四ツ以後巳
城晩ニ八ツ以前ニ退出仕ル事
不苦　貴命ニ付自今以後ニ表ニ言ニ
上意ニ新酒井讃岐守之

慶安元子年六月十八日

一 牧野佐渡守久世大和守内田信濃守所藤掃部
守此四人ニ内代々為人ヲ御側者人ヲ以表小
出越中守岡田淡路守代ニ以御側ヲ表安西勘兵
衛北條新蔵中根次郎右衛門遠山十右衛門駒
井右京曽我太郎右衛門六人ニ内認人ヲ御側
四人ヲ以表ヲ切ニ申渡

一 諸番頭ニ純法而ニ墨書之
面ヲ以法度ニ新等ヲ守哉否ニ様子令見歩御庭
清ニ次又ヲ急速ニ答可致言上ニ旨ヲ仰付

司法省

一 万事連々ニ仰付御通堅ヲ申ニ
面ニ家僕等對ヲ亟条ニ学之純法ニ安之様可
申付ニ旨ヲ以自分中觸之

寛文四辰年五月九日

一 小普請役ヲ以居宅組ニ入ル面ニハ其改々
ハ条ヲ以前親類縁者ニ内下人令同道可法越
ヲ若病氣ヲ以自分条ヲ於疑成ハヲ改ニ
家来招ニ病体ニ世ヲ様ヲ親類方ハ急度可申
渡事

一自然乱氣成病人ハ組ニ入ル時ハ第廉ニ審敷
其病人ニ親類中ヨリ病解有振ニ尚敷ニ可成
赤達ニ而論何方ニ成ル共 而法出様ニ親類中ニ急
度ニ成事

一只今迄所留居中組ニ入小番請役勤之面々
も右ニ通ニ赤心ニ滑ニ親類中ニ急度ニ達ニ
事

元禄八乙亥年九月

覚

司法省

一公事訴訟念ニ入ル中ハ入組公事論訟ハ
一ツニ一日ニ兼切不中ハ若滑ニ念ニ入理論
明ラカニ小載許有ニ様ニ可仕ハ也所役ニ
油断仕有義ハ所講釋解聞ニ 仰付候而ニ
常問心抵自分ニ行届赤嘗所仕業ニ為ニ
思召ハ奉行中為場心ニ付 思召ニ叶ハ様ニ
可念入仕治ニ可申付事

一奉行中振舞ニ条又ニ多第ニ振舞ニ或ハ婚
姻或ハ無概ニ細有之ハ名別ニ振ニ無之ハ名
振廻ニ候向後ニ無用ニ可仕ハ ケ様ニ

仰出ゆ候御奉公当一ニ公撰ニ勤ゆ振ニ之ニ
思召ゆ以上

寺社奉行　伯耆守殿　大目付

町奉行　伊勢守殿　勘定奉行　伊豆守殿

伯耆守殿　目付　萩原孫次郎

諸星作左衛門

右之面々ニ以書付ゆ渡之

一右書付ニ新諸浪人中遠國奉行中ニ被差入
之御ゆ勤ニ振ニ之候可ニ遠ニ大目付御
目付ニ山城守ゆ渡之

司法省

元禄十四巳年六月廿八日

覚

一條目ニ新ニ之忠孝を励ニ礼儀を正ニ上
下ニ差別混乱無之様ニ可ニ心掛ニ事

一政務ゆ於ゆ者不及申ニ支配方等ニ之ニ対
我意を不立差図ニ通ニ可ニ申ニ之ニ礼ニ勤ニ当要ニ
可ニ心得ニ事

一諸事ニ付ニ倹を加ニ倹約を可ニ心掛ニ之奏ゆ申ニ之ニ我意之
倹約を可ニ用事

一火之元之儀ニ付酒肴可入急事

右之趣ニ付 仰出之条弥堅可相守者也

右之書付万石以下之面々ニ申ニ而ハ無之

元禄十四巳年八月十五日

覚

一所番所ニ於ハ他法好御他之番所人法越

まゝ〳〵ハ自然所用有之他之番ハ法越ハ

時立合ハ番所組所之内ハ無之可法越事

一酒肴番之弦出ハ別限所ニ有之接受ハ各別也

司法省

一限之ニ者ニ様可仕事

一御城部屋ハ日没後其ハ〻組所之外無用多

一無用ハ城中ニ居結ハ常之限之様可仕事

一刀脇差小サ刀長ク之様振ハ用之不申様ニ

被仰出外衣服ハ之如是又用之不申様ニ

可仕事

以上

寶永二酉年二月十九日

覚

如何ニ元々組合ニ加盟ものたかさつゝ
後ニ振弥堅く可申付ハ之

寛永三戌年四月

覚

伏見奉行
長崎奉行
京都町奉行
大坂町奉行
山田奉行

司法省

日光奉行
奈良奉行
堺奉行
駿府町奉行

右ハ面々ハ度重江戸ニ相評定不立合ニ二三
度程出産ハ様可ニ申達ハ

西徳二辰年七月四日

覚

一 品々より諸職人町人ハ御用中ハ諸役所

所々面々江被仰付は藝術之類無而所用之勿
論職人町人おのゝ地音物御令前之通用の者
とゝふ共新規之お改誘引厳密之仕一切通用
をへゝ〳〵仕来配之者ともいふ及申妻子右仕
こゝろのゝ通り迷惑申付藝術仕ゝ者ども
歎こゝは況る而こ来配之事未職人町人より音
物通用之儀迄今不相止旨お聞届而は
急度厳密之上其所沙汰可有之事
一諸役所所用兼は職人町人お手生之御用筆師
時之御用付ゟ諸方お願之者有之御用ゝ
勤者と差支迄之者お以前之内お聞届
は自今以後願之者は一切お不可許容若之職
ゟ細有之は其御用捗又ゝ来配ゝお向て
交差図ゟ

司法省

右之趣可被お公儀は以上

七月

三奉行江お添渡之

前之通り法職人町人お御用申付は諸役所
所々面々江被仰付藝術之類無而所用お

勤は職人町人おのゝ音物振舞ニ付用物と
いふた新規ニ御改被事蔵器ニ仕一切ニ用を
〆ゝ法支配ニ者たゝ不及申妻子召仕ニ者
ニ迄堅ク分製詞仕ゝすへきニ歟ニは就
ル不小支配ニ出ル職人町人より音物ニ用ニ
成ル今不御止由御聞ニは若自今以後ゆ仕ニ
成ル歩ゆ急度ニ蔵ニ出ル筆墨ニ上ル所法可有ニ
由然又此度ニ仰出ル兼ル御用兼ル職人町
人ハ此ニ限ル事ニ〆ゝ格も ニ不ル音物ハ
猶ゆ不届ニ付ニは若此以後音物ハ不
猶ゆニ付ニ御用ハ使ハ為ニ ハ為ニ ゆ様子
も有ニ御ゝ早速町奉行ニ可申出ハ若
又此ニ〆ゝ ハ有或ハ ゆ或ハ ハ
ゆ ニ ハ或ハ ハ ゆ猶物
ニ 重多 ゆ ゆ 派手月を経ハ後ニ
元ゆ急度罪科ニ不ル成ル

司法省

七月

旧納戸役ハ御添減ニ

覚

常々所用ニ和紙入用等心ニ及ハ程入念日役
中諸吟味ニ上所費之様ニ御定可申付ハ
所細戸ニ清酒物且又所細戸より取ニ御渡
物ニ紙右ニ仕場ニ吟味ニ上所ニ書付ニ
差出ハ向後不吟味ニ有ニ之ハ何茂越後打る
〳〵可申渡ニ意ハ以上

七月

所腰物奉行ニ御渡〳〵

覚

常ニ御用ニ和紙入用ハ〳〵及ハ程入念日役
中諸吟味ニ上所費之様ニ御定可申付ハ所
腰物方ニ請ニ而且又所腰物方ニ諸色申付ハ
御用ニ和紙右ニ仕場ニ吟味ニ上所ニ書付
可差出ハ向後不吟味ニ有ニ之ハ何も越後
〳〵可申渡ニ意ハ以上

七月

御納所ニ御渡〳〵

覚

司法省

雇ニ付人用ハ、俵屋ニ婚方ハ請取相成又ハ
婚方より而ハ、ハ渡相成ニ成再篇逐吟味ニ付費
無之様ニ可致ハ公場ハ吟味ニ成ニ付ゆるニハ
様ハ少ハ分ニ及ハ程入急ニ成ハ尤ハ配
兵組ニ者ハ勤方不精ニ付ハ者ニ者有ニ
ハ而ハ上引ハを成ハ後ハ吟味ニ成
ニハ何ハ親族ニ成ハ〳〵ゆるハ得ニ成ハ
以上

七月

ハ細工所ハ赤添渡ニ

覚

常ニ御用ニ而ハ細工所ハ〳〵ハ有ニ中
ハ節角篇逐吟味ハ成ハ費無之様ハ可致ハ公
慣ハ別ハ三郎ハ湯ハ右湯ハ安右湯ハ前ニ
機田ハ赤勤ハ而ニ節ハ場ハ処ハ立ハ後
ハ絵ハ而ハ限ニ節方ハ勤ハ迎ハ
ハ跳相ハ賞上相ハ亜限ハ高ニ有ニ成吟味
ハ篇ハ赤少ハ届ハ後ハ限ハ入用ニ俵ハ
事一人急ニ而ハ尤ハ配兵組ニ者ハ勤方不精

司法省

ゟ而不宜者ゟ吟味ゆる例ゝ上引替てゝ
以後ゟ入用ゟ吟味ゝ兼帯ゝゟ何も越
度ゝ無ゝ様ゝ可ゝ致ゝ公儀ゆゑ以上

ゟ越而ゟ法ゝ御添紙ゝ

覚

法ゟ用ゝ付而ゝ諸ゝ断ゟ度而ゝ諸事物ゝ無
其後ゝ委細日後書合ゟ法ゆゑ費ゝ等ゝ様ゝ
ゝ及ゟ紙入急吟味ゝ上ゟ書付ゝ差出
法ゝ勤方ゆゑ不宜ゆゑ急度ゝ致ゝ公

司法省

儀ゟ元而ゝ御用ゝ無法急度以後
ゟ度ゝ具ゟ兼帯ゝ様ゝ配ゝ者ゝ差
ゝ密中付法ゟ入念ゝ致ゝ公儀ゝ組ゝ
方不情ゝ不宜ゝものゝ吟味ゆる可
中学ゟ以後不吟味ゝ者ゝゟ何も越度
ゟ〳〵ゟ可ゝ儀ゝ以上

ゟ度而ゟ用付ゟ御添紙

覚

近ゝ法ゝ恵ゟ法ゝ吟味ゟ有様ゟ郡方

篤と吟味の上相違無之ハ後日に及ハ祝念入精出可
申外に達意と兼諭の趣旨を以厳敷方ニて
可為取扱ものなり可心得ハ以上

七月

正徳二辰年七月

覚

大奥並ニ諸郡役方女中より表方ニ役人に親類
縁者ニ役替ニ成又ハ町人職人に用達ニ成と
女中より表ニ類ハ多く様ハ多ハ相違一
切表ニ役ハ若表ニ役人に申届りて用
事有之時ハ当番ニ居に申達ニ役人より当番
ニ居より申達ハ様ニ〻〻可申ハ女中より
直類と表ハ事ニ勿論ニ当番ニ居ニ役ニ〻
より表ニ役ハ一切不用ハ若此旨
ニ背ものも有之ハ急度ニ吟味可有之
仰出ハ右之通ニ九月廿九日ニ被出ニ
可申ハ以上

七月

司法省

正德三巳年七月五日

諸組之内心得代不明有之節或裏屋こうて
右抱こ或い須紋之貪りて番代こ入俵之組付
こ堂とう（こも所持抑可之下筋用こうう
さう者有こ内お多い未配所之 御付い節勘詞
こも挺成歩を撰い可之旨之報こい虚の不吟
味こい此以後厳敷糺こ者於上ハ所金銀こ
上ま配所可多越後の条下こ扱い之越い以上

正德三巳年七月

覚

御料所江毛吟味こう例年秋こ未こ之所勘
定組所こ内年番相之帳面こ者こ未有こ検
お多こい所取毛こ民秋作こ悪こも不限
変作之外畑作おこ様子聞こ土地こも お考
い為こも者こ百姓困窮こも不及様こ有
勘弁こい高多こ所用捗こう之 紙及こ答候
こ一者こ内為内後春中こ年番お之年中こ次
大詳こ遂吟味所取毛毛お之い様こ下こ公
切事

司法省

一 提川除ハ所普請ニ付代官ヨリ指出ス帳面ヲ所勘定組所月番切ニ請取吟味有之由ニ付見為御用等ハ帳面所ヲ之迄ハ為ニ可致成ル諸事明細ニ有之ニ付其ヲ条ヲ又自今以後功者なる内ニ而年番ヲ定或ハ為分ケ御入用掛ヲ年月ニ〳〵ヲ以或ハ所入用減ヲ先見合置ヲ新役所ニ而ハ可有之ニ付ハ免角始終ニ所費無之様ニ心掛ル要ニハ就テ月番切ニ吟味ニ付テ委細有之ニ付成ル丈ケ不ニ付ニ年ヲ重ネ勘ヲ様ニ成ル丈ケ

仰事

司法省

七月

正徳五未年正月十五日

所留ル居
大所番所
所書院番所
所小姓組番所
新所番所
百人組ニ所

所持之氏
所先生
所留守居番
所書院番頭
所小性組之頭
所徒頭
小十人頭
所納戸頭
所腰物奉行
西丸所裏所番頭

司法省

右去三日之夜所端初之時所書院所番所之角
之所敵之拔声仕りたるの者之番所並居は安座
と之退り所徒目付組頭条合七彼者を捕は
無之所中詰所番所者之或之ゆ之新之詰所之
禁き之之（き所為に所所番所之之仕美
出は可所番之之中之心付之之仕合こは自今此
接番氏組氏之中合りは何るこうしたる此事
常之之者之時所番所之動方者之は接こ之中
合所番所ト宜て之中渡り以上

正月

正徳五未年五月朔日

臣役人中各ゟ御用之綱ゟ笑有之節ハ後新番
不合奥之方ゟ之歩通ゟ後ゟ後之役金用之中
ゟ之ニ可致相心ハ上

未五月

正徳五未年七月五日

御用兼ゟ職人町人ゟ之町ゟ行ゟ之ゟ書付

添々

司法省

一御用兼ゟ職人町人ゟ外ゟ行ゟ之ゟ之ゟ金藏
ニ物ゟ之ゟ金ゟ請取ゟ之ゟ歩銀ゟ之ゟ金
藏ゟ公共ゟ差出ゟ之ゟ礼相ゟ之ゟ金奉行中
ゟ音信ゟ之ゟ田舎ゟ之ゟ品ゟ有ゟ之ゟ
ゟ之ゟ自今以後礼物歩銀等差出ゟ之ゟ有ゟ
ゟ之ゟ之ゟ年月之ゟ後ゟ之ゟ急度御用ゟ
ゟ之ゟ故ゟ之ゟ之ゟ罪科ゟ之ゟ沙汰ゟ之ゟ
ゟ之ゟ事

一無之ゟ之ゟ用取ゟ之ゟ職人町人ゟ之ゟ配ゟ之ゟ役
人中共ゟ之ゟ新参ゟ之ゟ之ゟ之ゟ出入ゟ之ゟ

緒有之ハ左程ハ之音物もいつかこれ及振廻ハ
ゝ成ハ之自今以後違犯之者有之ハ
ハ是又前条之制ハ准し急度其沙汰有
つきる
但御用捻ハ配役人中其主人ハ言ニ不及
彼米ハ之も ハ新ハ取れ或い金銀ニ而持或
ハ買物取次ハ一切制禁之事
一公文訴訟有之者奉行役人中并家来ハ
ことゝ云ともハ内緒ハ求め音物ハ受ハ制
禁ニ有之ハ違犯之者ハ理運ニ
公事ハ理ある訴訟ハ云ともハ一切ニ許容有之
〻ハ若亦裁許ニ成年月ハ過ハ当ハ
ハ急度其沙汰ハ及ハれ罪科ニ行ハるべき
右之儀ニ厳重ハ申渡ハ若音物ハ受ハ後ハ
制ハ用ハ又ハ公事訴訟ハ延滞ハ成ハ
之如ハ申ハ細ハ以大目付ハ自分中ハ
ハ故ハ訴出ハ宜ハ沙汰ハ及ハ者ハ

司法省

正徳五年七月日

評定所

覚

御用兼ね職人町人共ニ而用捨支配没人中ニ
付而音物ニ候ハ御制禁之 仰出ニ候ハ甚
与出付差出ニ候ハ者之遂捕見ニ上右之書付町
奉行中ヶ町方ニ可ニ出置ニ事

一 公事訴訟之ニ者内証音物ニ而制禁之ニ
又右之書付ニ者載ニ町方ニハ町奉行中より
可ニ申聞ニ但此一條ニ者諸国ニ百姓寺
社方ニも者ニ寺社方ニハ寺社奉行中
ニ料而ニ御勘定奉行中私ニハ大目付中

司法省

ニ出付ニ者ニ載ニ以可ニ申渡事

一 江戸表ニ者遠国奉行中ニ者御用捨者ニ而ニ其
支配下ニ者ニ事ニ者載ニ人有ニ由ニ者不
可ニ申ニ何方ニ中ニ者ニ一切ニ兼ニ
ニ者ニ理非ニ付ニ正道ニ沙汰ニ有ニ者ニ
新ニ人ニ辞退ニ及ニ者ニ記ニ沙
汰及ニ者ニ事ニ者ニ有ニ者ニ者ニ
ニ依ニ昌ニ沙汰ニ者ニ可有
ニ急ニ者ニ者ニ者ニ者ニ事
右ニ隔ニ委細可ニ申渡ニ者ニ以上

寺社奉行の勘定奉行に大目付より寺社方の料私訴
相觸書付

公事訴訟有之者共奉行後人中共家来
ことにふれ内縁を求め音物を贈り後制禁と
有之違犯之者共理運之公事
を理ある訴訟とても一切に許容有間敷
旨若又裁許之後年月を経ても急度
訴訟及出罪科を行ふる所存もの也
右之段申出ゆるゝ公儀へ
申上ゆる上

司法省

七月

享保三戌年二月四日
伝番代之者共番代之儀に付之儀和に法載
お勘ゆる向後番代之儀不成ゆる旨仰渡
ゆる上

戌二月

享保三戌年六月十八日

去ル廿四日 御威之節雀部新六郎組内歩行之者幸中間之儀と分新六郎儀者之給指と中分ゆと 御尋之節最前内役儀ニ 仰付ハ御組之者ハ 御呼先勤之者先指之通入意ハ勤ゆ様之と中渡ハ迄之者外勤方之心得新六郎ハ部勤矢筋中合ハ可申之ハ無之諸取ども ニ 仰付ゆ者ハ先之ゆ勤方ハ指ゆ通り之儀之者之と却と紀之者如此之者ハ時ハ帳仰出之の筋之者も押之ハ御委細得心之上ハ又自分之覚悟之ハ一の本勤度之儀ハ有之

司法省

勤方内役ニ 仰付詮なき儀ハ有之男名ゆ

一内徒之者内長国之前平伏之儀 御駕籠を見掛中ハ下乗平伏仕ハ自今以後ハ 御駕籠之通ル之者平伏仕ハ御通之ニ拝ゆ既ものの事ハ

一御目遠き辻之番所又ハ町屋之内ハ入有之者ハ之者と つきゆ迄ハ平伏致ス事

一御威先又ハ門之勤番之前諸組之与力同心御目通ハ詰出ゆ之ハ 御駕籠之通ル平之者伏可仕ハ平伏之ゆ国之ゆ之者

六月十八日

嘉保三戌年七月廿六日

覚

諸国より出る小番請入の民法番方ニ而ハ別ニ十三ヶ月と限り候ハ十三月ニ外一ヶ月も病氣保養ニ而出来勤ル民法成病氣ニ而ハ其ニ応ジ番ニ相延候ニ付出ル出番ハ下番ニ成ル故方ニ相ニ十三ヶ月ニ外五六ヶ月も保養ニ出勤法成ル相ニ付ニ

見合候ニ出ル相ニ而後可ニ公切ル事

司法省

七月

嘉保四亥年五月廿七日

覚

一 前ニ申ス 御出ル法成ニ成ニ付ニ

不届ニ成ル相ニ成ニ付ニ通ニ上事

一 諸役不前ニ申ス相ニ勤番ル者ニ而

下ニ成ニ相ル民ハ元ニ成達ニ一の表改事

一 新規ニ成何ニ申も可ル成ニ相ル民ニ通可ル

上ヲ

右ノ通ニ候哉ニ付テハ奉願度ニ付出ル様ニ

急度可申出帰ル以上

五月

嘉保四亥年六月廿日

支配ニ付 御目見以下ニ者名字いりまの

御代ニ 右出ルもの後年号月日共先祖ニ奉公

ニ和親類書ヲ以出ル様ニ可致出ル

右ニ類ル事ニ付届ル

司法省

嘉保四亥年六月廿日

覚

諸役所ニ今巡町人共人足ニ出ル様ニ 御城ニ

右ニ通ニ候ニ者ニ百姓ニ付自今出ル若

不時ニ所用ニ時分ニ成ル共ニ分ハ其通

ニ支ニハ無ニ障ニ候又ハ帳面ニ付ル振ル繁

ニ役所ニ而ハ何振ル繕ニ而ハ掃除ル其

役所ニ合ニ様ニ者ニ可申付ル

但二九ヶ度所ニ詰ル町人共相止ル

御本丸所蔵而已中越所風俗〳〵ニ成可申

候

以上

文六月

享保四亥年十二月廿三日

名改ゆ後日後相違之外迫之親類又之迫之縁

者未養会ゆ名且又先祖〳〵名ホ〳〵之家格等

有〳〵ハ名別ニ成之〳〵ハ名改〳〵願申出ゆ

而後ニ〳〵養和ハ

右〳〵新参〳〵ニ〳〵ホ達ゆ仕上

司法省

文十二月

享保五子年八月五日

前〳〵より之 御出ハ法度〳〵ニ且又諸役而

等〳〵後〳〵分別ゆ後もゆゆ可申出旨去亥五

月ホ七日ホ達ゆ成ニ付之後ハ組ニ成〳〵内

〳〵ハ別書出ゆ有〳〵ハ〳〵ニ出相〳〵

而〳〵之〳〵ハ先〳〵ニ出ゆ先別書之〳〵ハ

其所ニ書付可〳〵出ハ

八月

嘉保五年八月廿四日

先日中以通知去簡以後組支配ニ付
御書付出ル義有之候ハヽ可差出哉ニ付而ハ
度改ル書付差出ル積ニ御簡ニも有之様ニ
御尋ル左様ニ候ハヽ孫去寅御達ニ付ス
御家ニ後差出置ル書付義ハ可申出ル
書付無之ル事ニ候ハヽ其旨可申出ル

八月

司法省

嘉保五年八月

覚

三奉行ヘ

一 御定而式日家合ニ前者中出座ニ後而度一月
ニ度宛出座ニ若ハ別張ニ五ツ時迄出奉
行中公事ニ付ニ見分ニ為ル外条尚日ニ
公事取扱ハ内ニ出座 城下ハ時ニ
御城ヶ谷越ル義も可有之ハ左様ニ前ハ第日
下達可

一公事訴訟ハ〆切会ハ今ヨリ可差出ハ式日ハ公〆〆ニテ撰出シハ実際ニ用ヒル事

一式日ハ十一日ニテ有出産ハ第拾会ニ前ハ十一日可有出産ハ事

以上

八月

大目付ヘ

右ハ文ニ

一許可不可ハ御〆〆ニ十一日以前又十一日以後ニ

司法省

リ〆月毎〆ニ書中完ニ可有〆ハ事

八月

富保五子年十二月朔日

覚

一高子年迄十ヶ年所番皆勤〆ニ付高年中書付可〆ニ差出ハ

一巳年迄十ヶ年所番上勤〆ニ付巳年分中書付可〆ニ差出ハ

一寅年迄十ヶ年所番上勤〆ニ付寅年分中書付可〆ニ差出ハ

差出ハ

十二月

西園寺

三宅 大學

長田三右衛門

享保十己年九月

素人究竟勘定而ハ強越諸役人勤方等役不仕
法ホ心ヲ付及見及ヲ以ハ可ヲ中ヲ少ハ

司法省

享保十己年十月

就ニ役儀先達而ヲ差出書付ヲ通ル後ハ評席
用屋ヲ席ヲ中ニ有来産業ヲ用ル新規ニ而評
定所裁許場ヲ建ル儀ヲ用ルハ新焼ヲ彫物
仕ル方ヲ以建物ヲ評席ニ可ヲ用ル且又
別席地席ホ別座ニヲ建ル及有来産業ヲ用
ヲ屋風ホヲ以ヲ席ヲ隔ル様可有御器ル事

一責社役人ヲ初ル役ニ付ル彫彩ヲ以役書
出ル人数ヲ多ク以中付役ハ能大ヲ用ニハ
有来人ヲ以用新規ヲ抱ル役ハ不ヲ用ル多

一前々ハ所用之外ニ出城ニ成ハ
不仁迚来所用ニ有之ニ付之ニ接日ニ出城ニ振ニ
成来ハ如後ハ諸番之人ニ外ハ御用之ニ而
不及出城事

一一座ニ而ニ付之用ニ音物又ハ日役ニ並ハ進
ハ音物ハ之役類も有ニ付少之ハ振ニ
致ハ以来可為之用事

一迚来ニ御勘定吟味役ニ被ニ振ニ
ニ中田地方ニ付ハ或ニ振ニ可有ニ
公支御記載許ニ成諸合ニ有ニ筋ニ之日

司法省

御中ニ被ニ致ニ
該ニ有ニ事ニハ地方ニ付ハ或ニ評定所ニ
該利有ニ可ニ御ニ完ニ吟味役ニ振
及中ニ或ニハ事

一御役ニ付之用ニ物入之ニ振中合以後ニ
記役ニ中次ハ振ニ可ニ合ハ

十月

享保十七子年六月

井沢弥惣兵衛

右之事ニ付普請御用兼ねこと所勝手方ニ銭
ども不足ゆゑ入用積り書ニ銭ニ付差支
申候ことと吟味役ニ申聞候ニ付ては統ル
処外吟味役勘ニ通ず仕候様ニ相見く
年竟之事ニ御普請所用ニ銭ハ（ハ差ス）
吟味役勘とい換ゆ申通ゆゑこゆゑ場所
合可申勘ル

享保十八丑年七月十七日

所番元助之ゆ銭渋御ニ銭故差ニうも少充

改中用捨方ニ銭ハ多少ゆ渋之為又用捨方ニ助
之不申ゆ銭ハ分ハ各別ニ銭ニ助之不申ル
様可致申渡ル

享保十八丑年十二月十八日

唯今迄所入人ニ前
御目見以上ニ場ル　御目見以下ニ者ども
ニ書出ゆ場ハ而後ニ　御目見以下ニ者
ハ　御目見以上ニ場ル書出ゆ義可為之用ル
以上

元文元辰年十月ホ五日

向後御用人又ハ御入人ホ書出シ之節ハ勿論祖父父遠島遍塞閉門ホ方ニ付テハ年月日御免ニ月日ヲ書出シ申ス尚人ヨリテ右御免ヶ月何年月ニ成リ申ス旨書加可申指出シ右ニ通組ヲ配分ニ面ニハ可申出遣シ

元文四未年六月ホ九日

司法省

一 父勤ニ年数并藝ニヲ部ヶ新規ニ附番入ス 作分ハ面ニ出今迄ニ 石出シ申シ以後病氣ニヲ強ホ勤申上引込ハ得ハ小普請ニ入ハ自今病氣ニヲ引込ハ面ニヲ切米差上ル器ニハ重ヲ病氣快勤ノ決成ヲ拾ル節ハ元ニ迄了ノ出ハ左ハ以ニ者ニ様ヲ次ヲ元組ニ附番入ス 作分ヲテ有ニハ且又前方右ニ取ヲ以新規ニ附番方ニ ホ 石出ヲ 部屋住ニヲ 独立ハ面ニモ右用ヲ可ホ公得ハ

一 部屋住ニ用ニヲ 布衣ニ 作分ハ面ニ病氣

この類申上引渡ハ乞又ハ切米可差上儀ニハ
万一先ハ番方ハ元組ニ付入籠儀ニ有之ニハ
其者家ハ上ハ必元役ニ可成儀申付筋ニ
ハ切米差俸ニ下置ハ万世旨ニ付公儀ハ病氣
快勤ニ可成と存ハ前ハ既ニ配置可申達
ハ

右之新例ニ可申渡旨達ハ上

未六月

元文五申年七月十一日

司法省

既ニ配ル御用人書出ハ前達国役人ニ付ハ
日役ニ付之之ハ日不ニ役ニ付筋ハ之中
ニ忘撰ハ親類又ハ ちゝ続ニ者ハ而後
ハ其旨書出ニ添可差出ハ

右之通ニ可致通ハ

寛保元酉年五月十三日

手力日心ニ付又ハ親類ニ日番代ニ願勤させ
ハ時番代ニ者方ハ其親方ニ者共ニ合力
ニ成ハ ちゝ ハ 但 ハ 拙 ハ 御奉

公方勤り者こゝろ〳〵ハ親方こゝ者たハ互ゝ
合力致ゝ中百義致ゝ而和合力こゝ多少之中義故ハ
送状こゝ立ゝ先祝共義こゝ初ゝ而ハ互ゝ養
育人数等ハ力ハ心之分限ゝ合力負数之
可申付候ハ
右之趣可致ゝ公儀ハ
右之通ゝ可ゝ申達ハ

寛保三亥年十月

支配こゝ者大勢こゝ候こゝ御用筋ハ諸向こゝ

司法省

用事ゝ無ゝ故之こゝ者多ゝ以申立通物可
ゝ載之慣ハ人ゝ心得違不届こゝ節
ゝ〳〵〳〵さる音物致ゝ用猥成事致ゝ仕
ハ百姓ゝ一切法ゝ不法ゝ申渡ハ
勿論後こゝ迄也却不仕様こゝ油断ゝ致ゝ事ハ
一支配こゝ者吾ゝ右之趣申聞ゝ上ハ其方共ゝ
一分こゝ法ゝ要こゝ無ゝ音物ゝ用ゝ候ハ今迄
之来ハ不仕ゝ〳〵ゝ何と見ゝ音物
ハ支配仕百姓ゝ右こゝ外ハ諸事心ゝ附ゝ支配こゝ者
ゝ申渡ハ滅ゝ勤ゝ事ゝ不申渡ハ

十月

右之趣毎年書面提出可致候事

司法省